

(2007.11.2)

# 大田区 基本構想審議会 第二部会 資料(案)

第3回

平成19年11月6日(火)



## 目次

第3回部会の論点	・・・	1
生涯学習とは	・・・	2
生涯学習の充実において何をめざすか	・・・	4
生涯学習を支える拠点のあり方とは	・・・	11



## 第3回部会の論点

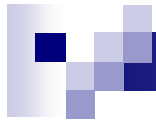
「生涯にわたり学習し、地域に生きがいと居場所を持てるまちとは、どのようなものか」

【テーマ1】

生涯学習の充実においてなにをめざすか

【テーマ2】

生涯学習を支える拠点のあり方とは

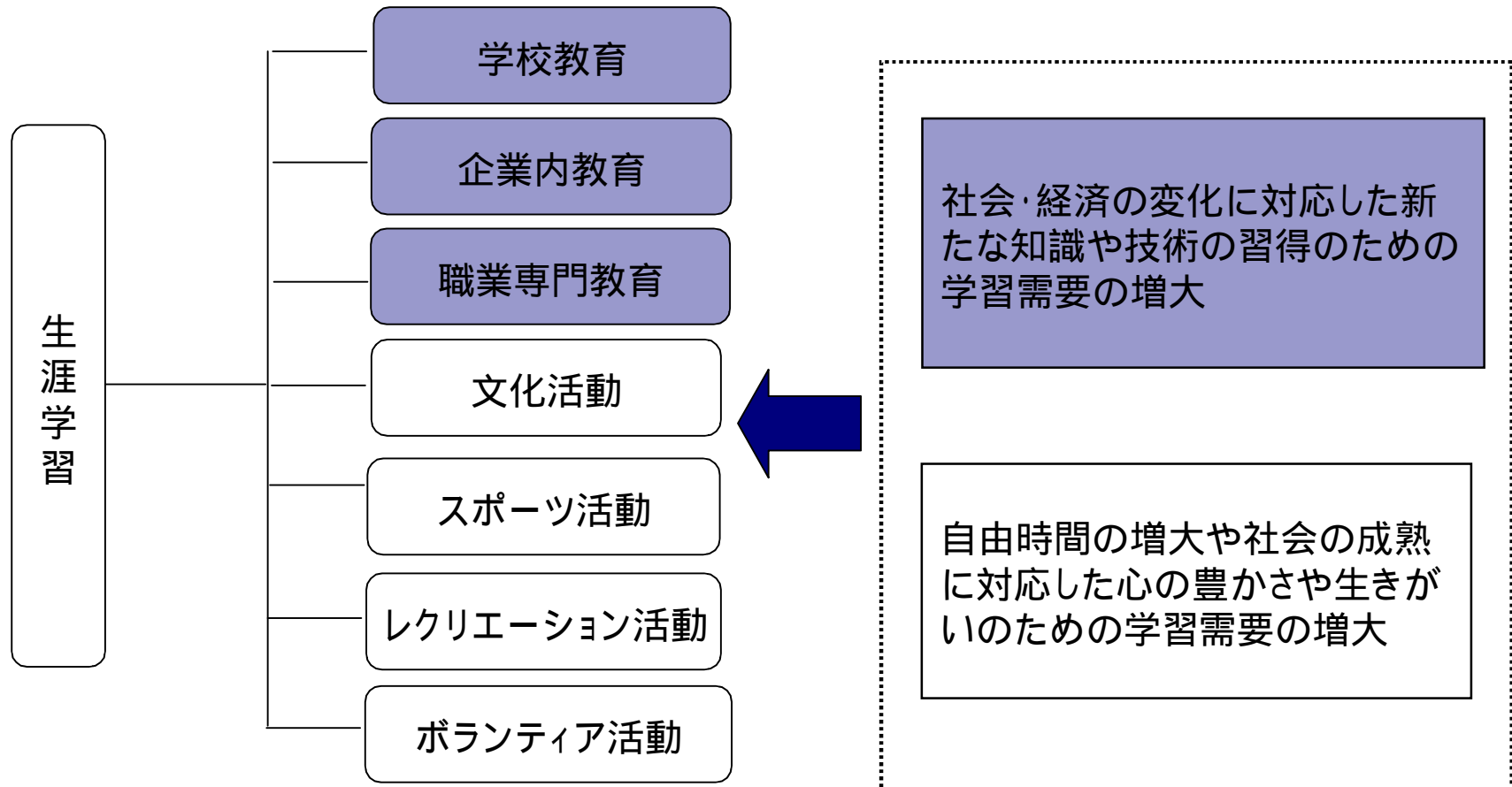



# 生涯学習とは

# 生涯学習とは

「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に活かすことのできる社会の実現が図られなければならない」(改正教育基本法第3条)

## 社会環境と生涯学習





【テーマ1】

生涯学習の充実において何をめざすか

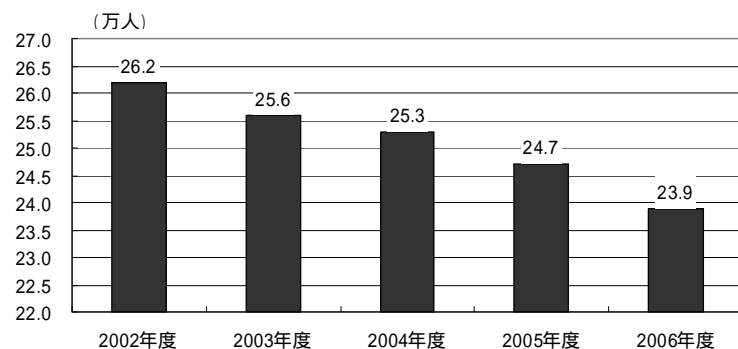
# 【テーマ1】生涯学習の充実

## 【現状】

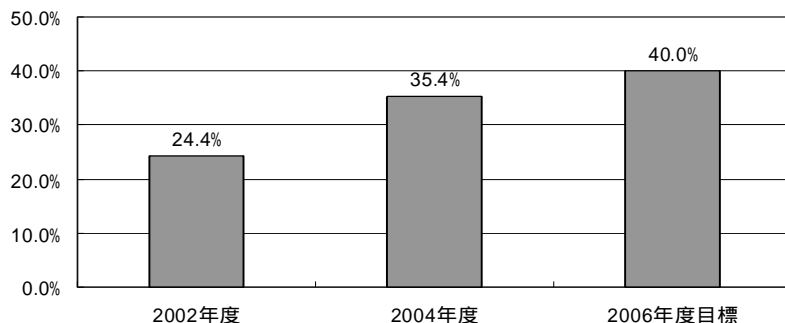
大田区では図書館の利用登録者数とスポーツ活動への参加割合(成人の週1回以上の実施率)を区民の生涯学習の活発さを示す指標の1つとしている。図書館利用者の登録数は登録更新の期限を6年から2年に短縮したため、過去4年間減少を続けているが、スポーツ活動への参加割合は上昇している。

区はスポーツ教室や区民大学、地域講座なども開催しており、多くの参加者を集めている。

区立図書館利用登録者数



スポーツ活動に参加する区民の割合



生涯学習関連事業への参加者数

	事業名	参加者
スポーツ振興事業	中学生スポーツ教室	285人・延3172人
	成人スポーツ教室	638人・延5091人
	高齢者スポーツ教室	511人・延3359人
	障がい者スポーツ教室	69人・延400人
	青少年文化スポーツクラブ	24人・延423人
社会教育事業	区民大学	1593人
	地域講座	553人
	家庭・地域教育力向上支援事業	10361人
	社会教育訪問学級	21人

(資料)「大田の数字2006」より作成

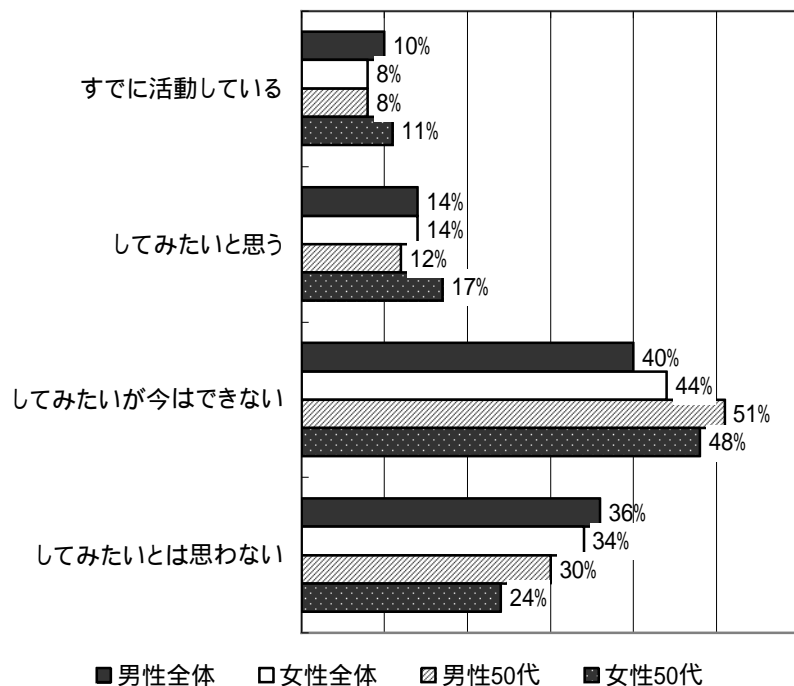
# 【テーマ1】生涯学習の充実

## 【現状】

区政に関する世論調査によれば、現在、ボランティア活動をしている人の割合は男性全体で10%、女性全体で8%に留まるが、「してみたい」および「してみたいが今はできない」という人の割合は男性全体で54%、女性全体で58%に上る。特に、「団塊の世代」を含む50代では男性の63%、女性の65%が意欲を持っている。今後、定年等に伴って時間的な余裕ができると、こうした意欲を実現させる人が増加するものとみられる。

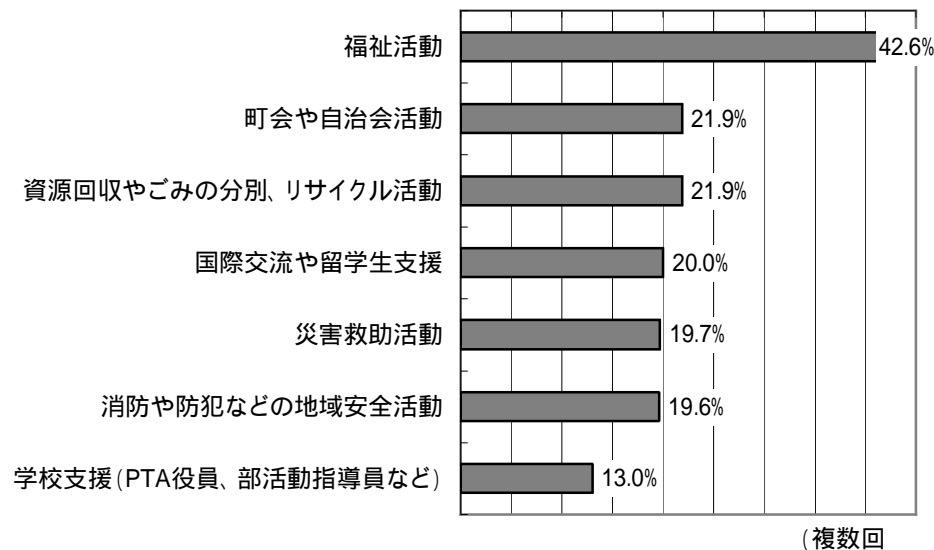
参加したいボランティア活動のジャンルとして、最も関心が高かったのは「福祉活動」であり、以下、「町会・自治会活動」、「資源回収・リサイクル活動」、「国際交流」などが続く。

ボランティア活動への参加経験・意向



(資料)「平成18年度大田区政に関する世論調査」

参加したいボランティア活動



(資料)「平成18年度大田区政に関する世論調査」



# 【テーマ1】生涯学習の充実

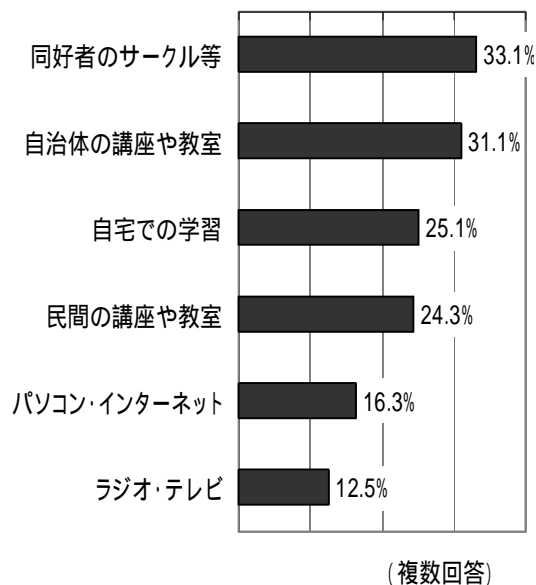
## 【現状】

内閣府「平成17年度生涯学習に関する世論調査」によれば、過去1年間に「生涯学習」を実施した人は48%であり、内容は「健康・スポーツ」22.1%、「趣味関連」18.9%、「パソコン関連」12.0%などが上位を占める。

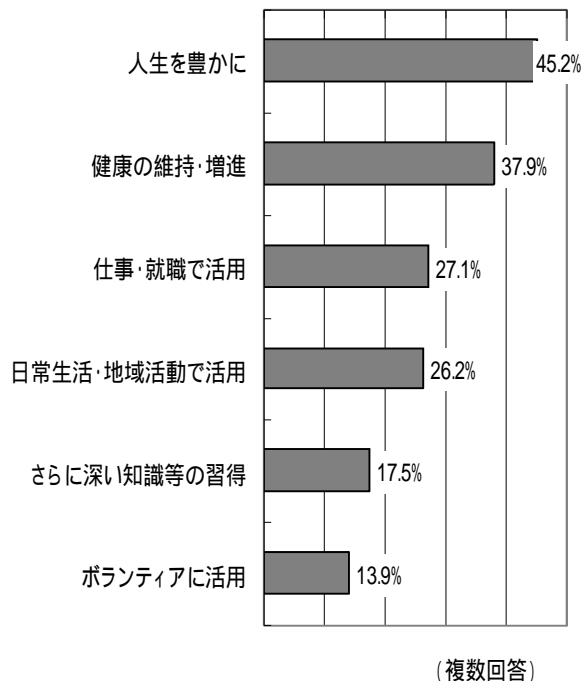
学習の成果としては、「人生を豊かにした」、「健康の維持・増進」に満足感をおぼえる人が多いが、仕事や地域活動、ボランティアに活用している人もいる。

今後、生涯学習に取り組みたいと回答した人は6割を超えたが、機会に関する要望としては、「自治体の講座等の充実」が最多であった。

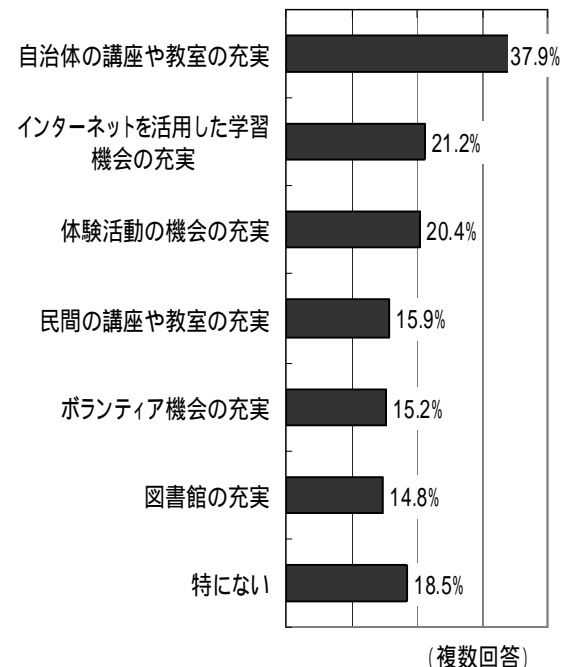
### 生涯学習の形式



### 生涯学習の成果



### 生涯学習機会に関する要望



(資料) 内閣府「平成17年度生涯学習に関する世論調査」より作成

## 【テーマ1】生涯学習の充実

### 【現状の施策にみる方向性】

「大田区教育推進プラン」では、生涯学習の今後の方向性として、「区民が学習・スポーツ活動を通して、まちづくりの担い手として活躍する」ことを挙げている。

「地域で学び、地域に活かす」という視点のもとに、区民が地域の課題解決に向けて学ぶこと、行動することの支援・促進を目指しており、学びの成果を活かす仕組みづくりなどを推進している。

### 生涯学習に係わる施策

学びの成果を活かす 仕組みづくり	ボランティアの登用機会の拡大
	区民活動団体との連携による事業運営
区民活動の環境づくり	情報提供による活動の支援
	文化・スポーツイベントの推進
	民間・他機関との連携
	施設の有効利用
	総合型地域スポーツクラブの創設支援
学習機会の内容・提供 方法の転換	公共性・公益性の高い講座の開設
	各種学校や地域と連携した講座の開設
	世代間交流の推進

## 【テーマ1】生涯学習の充実

### 【備考 - 将来展望】

経済財政諮問会議が作成した「日本21世紀ビジョン」の生活・地域ワーキンググループ報告書では、豊かで多様な国民生活に必要な新たな「三種の神器」の1つに「年齢にかかわらず楽しめる生涯学習サービスや文化芸術活動」を挙げている。

同ビジョンでは、健康寿命(心身ともに健康で自立している期間)の延長によって、2030年の生涯可処分時間時間は2002年に比べて12%増加し、生涯にわたってスキルアップとともに多様な教養を楽しむようになる学習社会と想定している。また、年齢にかかわらず再挑戦できる社会が実現し、キャリアアップにおける高等教育の有効性が高まることから、社会人の大学院在学者数が増加するという社会を描いている。


可処分時間に関する将来ビジョン

	2002年	2030年	備考
労働者の生涯可処分時間	18万3000時間程度 (20.9年)	20万5400時間程度 (23.4年)	・健康寿命延長 ・61～65歳労働時間はパートタイマー並み(1184時間) ・大学院等に2年間在学

大学院在学者に関する将来ビジョン

	2002年	2030年	備考
人口千人当りの大学院在学者数	1.99人	8人程度	2000年の米国の人口千人当りの大学院在学者数7.66人


(資料)経済財政諮問会議「日本21世紀ビジョンに関する生活・地域ワーキンググループ報告書」2005年



## 生涯学習の充実においてなにをめざすか

将来のあるべき姿とは

施策の方向性はどうあるべきか



## 【テーマ2】

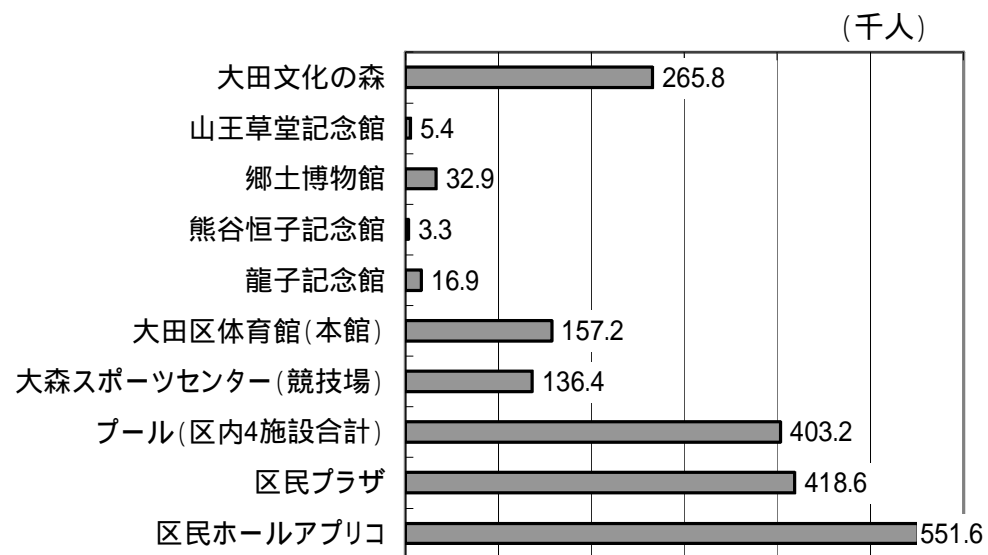
生涯学習を支える拠点のあり方とは

## 【テーマ3】生涯学習拠点

### 【現状】

区内の主要な文化・スポーツ施設としては、コンサートや講演会などに用いられる区民ホールアブリコ、区民プラザ、スポーツ競技に用いられる大森スポーツセンター、大田区体育館などがある。また、地域のサークルや団体等の活動の場として、各地域に区民センター、文化センターなどの施設が存在する。しかし、区民の居住環境に対する満足度では「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」に対する評価は低い。

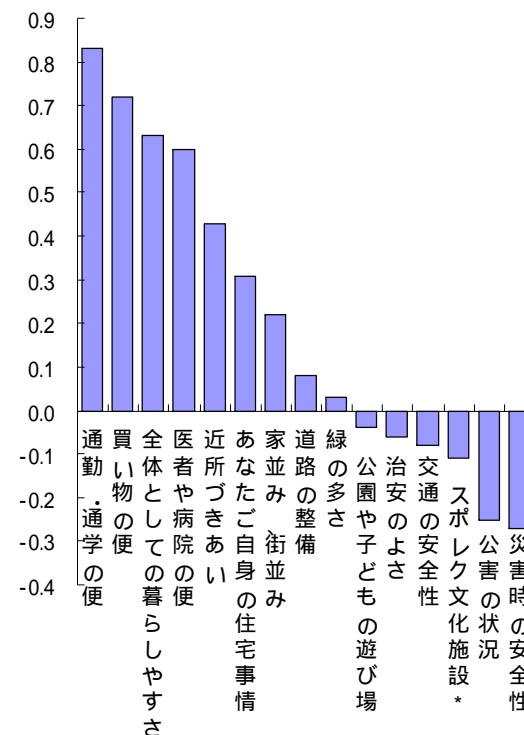
主要な文化・スポーツ施設の利用者数



(注) 区民プラザの利用者には会議室等の利用者を含まない。

(資料) 「大田の数字2006」より作成

区民の居住環境満足度



(注) 回答を「満足している」(2点)から「不満である」(-2点)として、各項目の評価を点数化したもの。\*スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ

(資料) 「平成18年度大田区政に関する世論調査」(大田区)

## 【テーマ3】生涯学習拠点

### 【現状】

文化・スポーツ施設に対する満足度を上げるためには、地域のニーズの把握と同時に、機動的な運営体制が必要である。2001年11月にオープンした文化活動支援施設「大田文化の森」は、公募委員を含む運営協議会が地域振興や区民の文化活動支援、文化の発信を目的として、理事会、事務局、コーディネート、事業の企画・運営・実施を担っている。100名を超える任意登録の文化プレーヤーがこれをサポートする。企画には直接企画と公募企画があり、後者には区内在住、在勤の個人および区内で活動している団体が応募することができる。

### 「大田文化の森」施設概要

- ・ホール(定員259人)
- ・多目的室(定員234人)
- ・展示コーナー
- ・第1スポーツスタジオ
- ・第2スポーツスタジオ
- ・第1～第3音楽スタジオ
- ・和室
- ・第1創作工房(調理室)
- ・第2創作工房(美術室)
- ・第3創作工房(工芸室)
- ・第1～第4集会室
- ・運営協議会のイベント(事業)がない日時は一般利用が可能。

### 「大田文化の森」におけるイベントの事例

懐かしのフォークソング・フェスティバル
異文化交流コンサート「インドの伝統と文化を楽しもう！」
大田文化の森落語会季節寄席 冬
0歳からおやこでコンサート
まちづくりフェスティバル～世代をつなぐまちづくり～
フィリピンの生活と文化
和太鼓ふれあいコンサート“絆”～夢と希望そして未来へ
わくわく科学の森～とぶたねのひみつ
外国人との共生の中でお互いの文化を体験しよう
日本ソバ打ちと異文化交流

(注)2007年10月以降のイベント

(資料)情報誌大田文化の森Vol.25Web版より

## 【テーマ2】生涯学習拠点

### 【現状】

中高生を中心とする子どもの居場所づくりも重要な課題であり、さまざまな地域で、地域の協力や子どものニーズを踏まえた取り組みが実施されている。こうした取り組みにおいては、指導員、講師として地域のボランティアが活躍が期待されることが多い。

文部科学省では「地域子ども教室」に続いて「子ども待機スペース交流活動」を推進している。PTAなど、従来からの担い手の負担を軽減するためにも、新たな担い手の発掘が望まれている。

### 子どもの居場所づくりに関する事例

自治体	取り組み	概要
葛飾区	居場所としての部活と学校図書館の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の居場所としての部活の意義の大きさを考慮し、指導教員の不足による廃部の増加を防ぐために、地域の自営業者、大学生、退職者などに顧問・指導員を委嘱する制度が発足(平成10年より)。</li> <li>・青少年の読書環境の整備に向けて、小中学校に学校図書館支援指導員と図書館ボランティアを配置。図書館ボランティアの養成は区立図書館が担当(平成16年度より)。</li> </ul>
世田谷区	中学校施設を活用した自主活動支援	中学生の放課後活動支援事業(STEP)として発足。中学校施設において運営協力員(地域住民)の支援により、週1回程度、軽スポーツ、音楽、パソコン、映画鑑賞などの活動が開催され、中学生が自由に参加できる(平成11年度より)。
町田市	子どもが中心となって運営する青少年施設	子どもセンターばあんは児童館であるが、計画段階から子ども委員会(小4から18歳までの子どもで構成)が運営に参加、意見を出し合うことによって、夜間9時までの開館、スタジオ・体育館など施設面の充実によって、中高校生の居場所としても活発に利用されている(平成11年開設)。

(資料)「子どもの居場所づくり」(東京都)2004年より作成





# 生涯学習を支える拠点のあり方はどうあるべきか

将来のあるべき姿とは

施策の方向性はどうか